

令和元年度九州地区におけるスモン患者の現状調査

笹ヶ迫直一（国立病院機構大牟田病院脳神経内科）
佐伯 覚（産業医科大学リハビリテーション医学）
吉良 潤一（九州大学大学院医学研究院神経内科）
原 英夫（佐賀大学医学部内科学講座神経内科）
福留 隆泰（国立病院機構長崎川棚医療センター神経内科）
山下 賢（熊本大学大学院生命科学研究部神経内科）
軸丸 美香（大分大学医学部神経内科）
杉本精一郎（国立病院機構宮崎東病院神経内科）
高嶋 博（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経内科）

研究要旨

九州地区のスモン患者の令和元年度検診受診者は95名の健康管理手当受給者の内の46名（48.4%）であった。検診受診者の平均年齢は81.6歳で、これまでで最高齢であった。検診時の臨床的重症度では極めて重度および重度に相当する人数は12名（28.2%）で、H21年、H26年と比べて割合が増加していた。併発症は脊椎疾患、関節疾患、白内障、認知症、心疾患、脳血管障害などであった。介護保険申請率は65.2%へと増加していた。栄養状態の指標であるBMIは、やせとされるBMI 18.5未満の患者が男性23.1%、女性27.6%で、H29年度国民健康栄養調査と比べて多く、H29年度、H30年度スモン検診と同様の傾向であった。

A. 研究目的

令和元年度の九州地区におけるスモン患者の現状を、「スモン現状調査個人票」と「ADLおよび介護に関する現状調査」を用いて検討した。

B. 研究方法

スモンに関する調査研究班の「スモン現状調査個人票」と「ADLおよび介護に関する現状調査」を用いて、九州地区各県毎（福岡県は更に3地区に分割）に検診を実施した。検診は九州地区研究班の各メンバーの所属する病医院や、スモン患者の生活する自宅や施設で行われた。得られたR元年度の検診結果を、H21年度及びH26年度の検診結果と比較検討した。Body mass index（以下BMI）は厚生労働省の国民健康栄養調査データを対照に比較した。また、検診受診者数、検診率および検診受診者の平均年齢はH14年度から

の年毎のデータと比較した。

C. 研究結果

1. 九州地区のスモン患者（R元年4月1日健康管理手当等支払い対象者）数は95名であった。これは平成30年度と同数であった。このうち、R元年度の検診を受けた患者数は46名（男性14名、女性32名、前年度比で計7名減）であった。検診受診率は48.4%であり、前年度より7.4%の減少であった（図1）。

検診者の平均年齢は81.6歳（65歳～94歳）で、前年度の平均年齢80.7歳から僅かに上昇した（図2）。H21、H26、R元年度検診者の年齢分布の比較では、今年度は90歳以上の検診者が他年度に比べて少なかった（図3）。

検診を行った場所は病院外来・保健所・集いの場

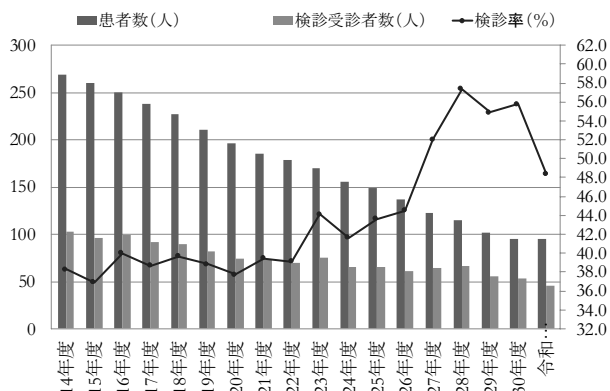


図1 健康手当受給者、検診者、検診率

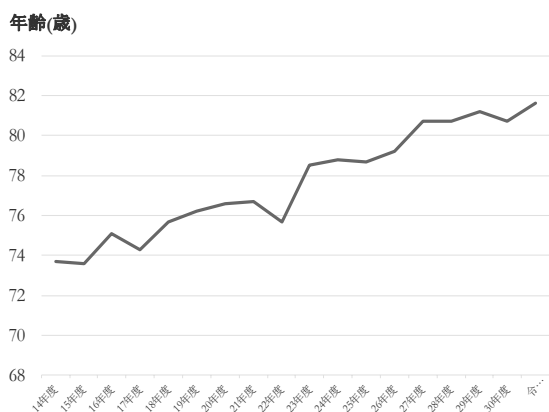


図2 検診受診者平均年齢の推移

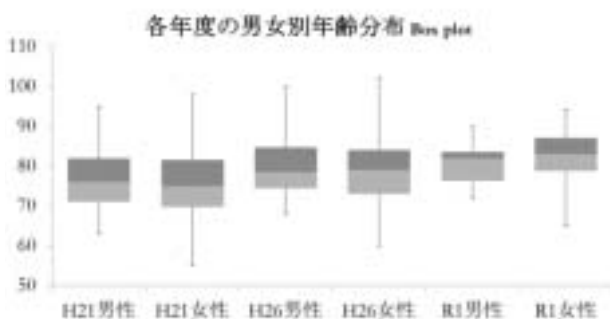


図3 検診受診者年齢

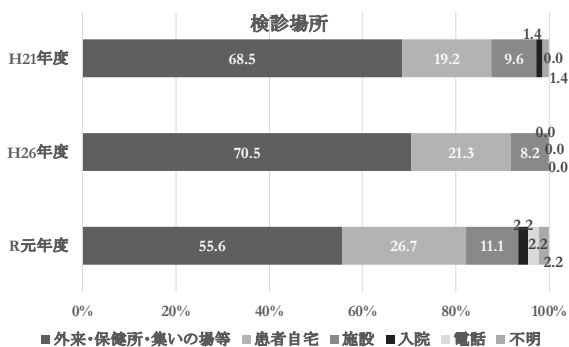


図4 検診場所

等の患者が 25 名 54.3%、患者自宅が 12 名 26.1%、入所中の施設が 5 名 10.9%、入院中の病院が 1 名 2.2%、電話で聴取 1 名 2.2%、不明 2 名 4.4%であった (図 4)。

2. 身体状況 :

「視力」：全盲 0 名 0%、明暗のみ～指数弁 5 名 10.9%、新聞の大見出しが読める～新聞の細かい字が読みにくい 36 名 78.3%であった。正常は 4 名 8.7%、無回答 1 名 2.2%であった。

「歩行」：能 8 名 17.4%、車椅子～杖使用 22 名 47.8%。独歩可能だが不安定 12 名 26.1%、ふつう 3 名 6.5%、無回答 2 名 3.8%であった。

「外出」：能 6 名 13.0%、介助・車椅子 23 名 50.0%、一人で可 17 名 36.9%、無回答 0 名 0%であった。

「異常知覚」：高度～中等度 25 名 54.3%、軽度 16 名 34.8%、ほとんどなし 1 名 2.2%、無回答 4 名 8.7%であった。

「胃腸症状」：ひどい～軽いが気になる 20 名 43.5%、気にしない 8 名 17.4%、なし 12 名 26.1%、無回答 6 名 13.0%であった。

「精神症候」：ありが 14 名 30.4%、なしが 31 名 67.4%、無回答 0 名 0%であった。

3. 診察時の障害度分布：極めて重度 3 名 6.5%、重度 10 名 21.7%、中等度 21 名 45.7%、軽度 6 名 13.0%、極めて軽度 1 名 2.2%、無回答 5 名 10.9%であった (図 5)。影響の強い併発症は脊柱管狭窄症・圧迫骨折などの脊椎疾患 10 名、白内障 8 名、変形性関節症などの関節疾患 7 名、認知症 4 名、脳血管障害 3 名、関節リウマチ 2 名、腎・膀胱疾患 2 名、

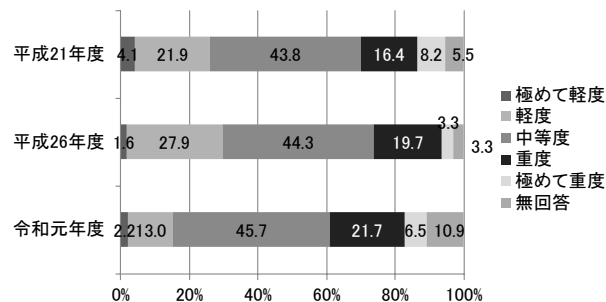


図5 障害度分布

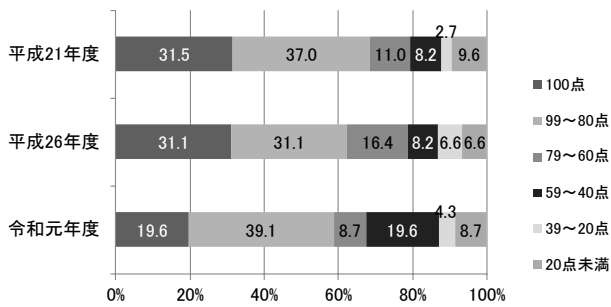


図6 Barthel index 分布

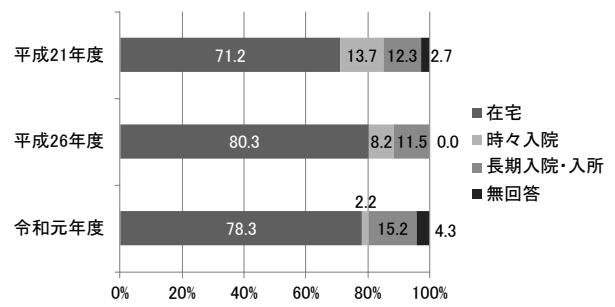


図8 療養状況

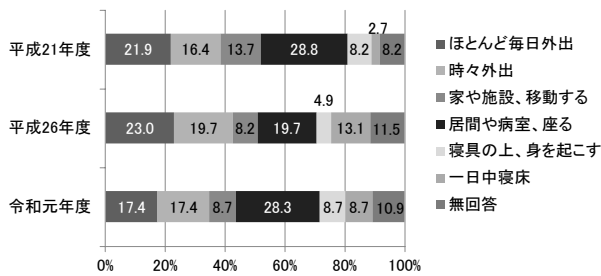


図7 一日の動き

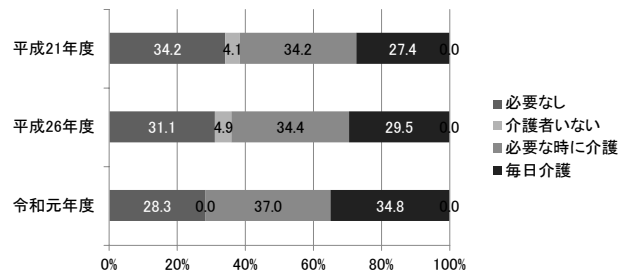


図9 介護の状況

潰瘍性大腸炎、骨粗鬆症、動作性振戦、うつ状態、リウマチ性多発筋痛症、パーキンソンズム、糖尿病、高血圧各1名であった(重複有り)。極めて重度・重度の障害度症例の割合は28.2%で、H21年度の24.6%、H26年度23.0%と比べて増加していた。

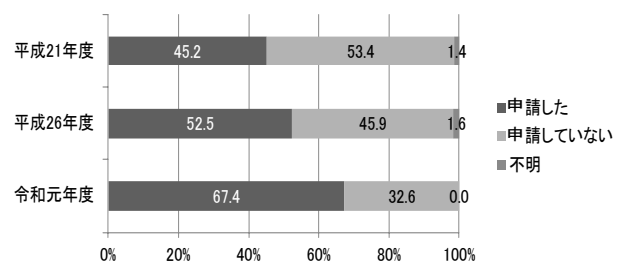


図10 介護保険申請

4. 日常生活動作 Barthel インデックス：100点9名19.6%、99~80点18名39.1%、79~60点4名8.7%、59~40点9名19.6%、39~20点2名4.3%、20点未満4名8.7%、無回答0名0%の分布であった(図6)。H21年、H26年と比べて80点以上の割合が減っていた。

大きく減った訳でもなかった(図8)。

5. 一日の生活(動き)：終日臥床4名8.7%、寝具の上で身を起こす4名8.7%、殆ど座位13名28.3%、屋内移動のみ4名8.7%、時々外出8名17.4%、殆ど毎日外出8名17.4%、無回答10名10.9%であった(図7)。

7. 日常生活での介護では、毎日介護16名34.8%、必要な時に介護17名37.0%、必要だが介護者がいない10名0%、介護の必要なし13名28.3%、無回答0名0%であった。日常生活に介護を必要とする症例は33名71.8%であり、H21年度の61.6%、H26年度の63.0%より多かった(図9)。介護保険制度利用の申請は、申請した31名67.4%、していない15名32.6%、不明0名0%、無回答0名0%であり、申請率は増加していた(図10)。

6. 最近5年間の療養状況：長期入院・入所7名15.2%、時々入院1名2.2%、在宅36名78.3%、無回答2名4.3%であった。R元年度は施設入所・長期入院中の方が多かった。しかしながら在宅の割合が大

介護保険申請した31名の要介護度の内訳は、自立：1名3.1%、要支援1：4名、要支援2：9名29.0%、要介護1：7名22.6%、要介護2：2名6.5%、要介護3：2名6.5%、要介護4：5名16.1%、要介護5：1名3.2%、認定結果未・不明・無回答はいず

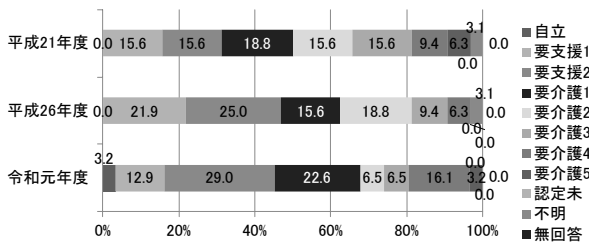


図 11 介護保険認定結果

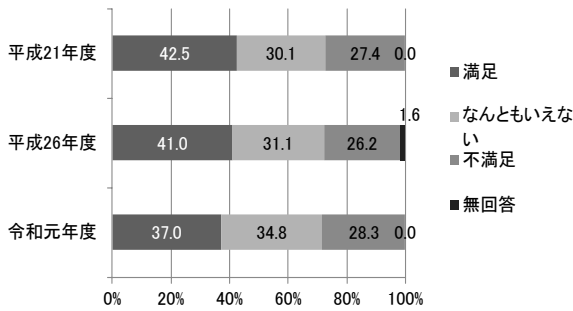


図 12 生活の満足度

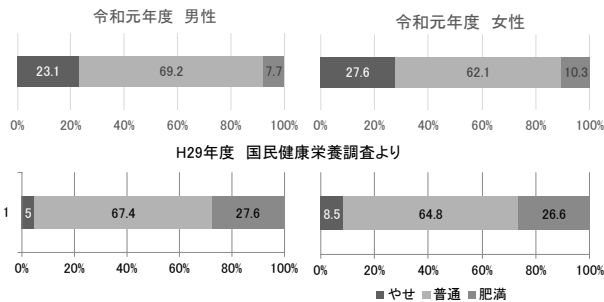


図 13 BMI 分布

れも 0 名であった (図 11)。

8. 生活の満足度では満足・どちらかという満足 17 名 36.9%、なんともいえない 16 名 34.8%、どちらかという不満足・不満足 13 名 27.4%、無回答 0 名 0% で、H22 年度、H26 年度と比べると大きな変動はなかった (図 12)。

9. 受診者 (全例で 65 歳以上) でやせ (BMI 18.5 未満) の割合は男性 23.1%、女性 27.6%、肥満 (BMI 25.0 以上) の割合はそれぞれ 7.7%、10.3% であった (図 13)。最新調査である H29 年度の国民健康・健康調査ではやせが男性 5.0%、女性 8.5%、肥満がそれぞれ 27.6%、26.6% であった。

D, E. 結論・考察

令和元年度の九州地区スモン健康管理手当受給者数は 95 名で昨年度と変わりなかった。H27 年度以降の受診者の平均年齢は 80 歳代前半が続いている。検診場所は病医院外来が最多であったが、二番目に患者自宅が多く、今回、電話での検診も 1 名あった。今後の検診率維持のためには、電話検診、患者での保健所保健師や病医院からの訪問検診などもますます必須になって来ると思われる。

H21, 26 年度と比べて、併発症や加齢の影響も含んだ極めて重度・重度の患者の割合は増加、外出できる割合の減少、介護保険申請率の増加が認められた。これらは一昨年度、昨年度でも見られた特徴である。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

1) 笹ヶ迫直一ほか：平成 29 年度 九州地区におけるスモン患者の現状調査。厚生労働行政推進調査事業補助金 (難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)) スモンに関する調査研究平成 29 年度総括・分担研究報告書。pp 78-81, 2018

2) 笹ヶ迫直一ほか：平成 30 年度九州地区におけるスモン患者の現状調査。厚生労働行政推進調査事業補助金 (難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)) スモンに関する調査研究平成 30 年度総括・分担研究報告書。pp 79-82, 2019